

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
法学	共通	1年生・前期	2単位	選択	城下 健太郎	
履修の前提条件	受講中、新聞やニュースなどの話題に関心を持つように心がけること					
授業概要 (Course Outline)						
本講義では、私たちの日常生活において法がどのように働いているのかを受講生の皆さんと一緒に考えていきます。具体的には、まず法律が私たちの日常にとってどんな意味をもつのか、そしてどのように実際に使われてきたのかなどを概観した上で、日常生活のさまざまな場面において関連する法律(民法・刑法・憲法・裁判制度など)を取り上げながら、法と暮らしの関係を探っていきます。実際の事例としては死刑や裁判員、夫婦別姓、尊厳死などを取り扱う予定です。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					
	問題解決力 Problem Solving					
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					○
生涯学習力 Lifelong Learning						
到達目標 (Objectives)						
以下の3点を授業の目標とします。 ①法律学の基礎知識・用語法を習得し、説明できること ②法律上、生じた争いや具体的な事件の背後にある立場や考え方の違いを説明できること ③法律学上の立場の違いを理解したうえで自分自身の立場を明確にしなが説明できること						
事前学習の内容	教科書の指定箇所を読んでおき、わからない単語や文章に線を引いておくこと					
事後学習の内容	配布資料を見直して、提示してある小レポート課題に繰り返し取り組む					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
毎回、講義においてかなりの文章量を小レポートとして書くように求めます。法学においては意見や立場の違いから争いがしばしば生じますが、受講生には自分としてはどちらが正しいのかを主張してもらい、その主張に対する理由づけをしてもらうつもりです。このことには受講生の能動的な参加が不可欠です。積極的に取り組んでください。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
非常勤のため、講義の前後を使って質問などは受け付けます。時間がない場合などはコメントカードを通じて質問の受付を行う予定です。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
講義は板書を用いて行いますので、初回からノートを必ず持参してください。 また、初回のガイダンスにおいて教員作成の毎回の学習確認のチェックリストを配布します。そこに毎回の予習・復習の範囲を書いていますので、必ず初回のガイダンスには出席してください。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	ガイダンス(法律とはどのようにイメージされているか?)		
第2回	日本人にとって法とは何か?(日本人の法意識)		
第3回	法の歴史(日本に法が伝わり、現在にいたるまで)		
第4回	法の体系と分類(現代日本法の構図)		
第5回	法と裁判①(司法の担い手と裁判手続)		
第6回	法と裁判②(裁判員制度)		
第7回	国家と法①(基本的人権の尊重)		
第8回	国家と法②(統治機構と国民主権)		
第9回	犯罪と法(刑法・冤罪・死刑)		
第10回	財産関係と法(契約の主体・客体・種類)		
第11回	家族生活と法(婚姻・相続)		
第12回	労働と法(入社から退職まで)		
第13回	福祉と法(社会保障制度)		
第14回	情報社会と法(インターネットと法)		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験など		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
はじめての法律学【第5版】	松井茂記ほか	有斐閣	978-4-641-22092-8
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
別途、配布資料にて紹介します			
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
定期試験(授業内容15回分に関して到達目標①と②の観点から出題)…70% 毎回の小レポート(到達目標③の観点から出題、1回2点×15回)…30%			